Y08a　国立天文台「市民天文学」プロジェクト GALAXY CRUISE の進捗状況

臼田-佐藤功美子, 田中賢幸, 小池美知太郎, 柴田純子, 内藤誠一郎, 山岡均（国立天文台）

すばる望遠鏡ハイパー・シュプリーム・カム (HSC) を使った大規模戦略枠サーベイ (HSC-SSP) の公開データを用いて、衝突銀河の分類に市民が参加する「市民天文学」プロジェクト GALAXY CRUISE の日本語サイトを 2019 年 11 月 1 日に、英語サイトを 2020 年 2 月 19 日に公開した（「市民天文学」は、国立天文台で行うシチズンサイエンスをさす造語である）。本サイト **https://galaxycruise.mtk.nao.ac.jp** に、2020 年 6 月 7 日現在で、66 の国と地域より 4232 名が「市民天文学者」として登録している（うち、日本からは 3411 名）。特に日本では、2020 年 3 月 2 日から全国の多くの学校が臨時休校に入った後に 10 代の登録者が急増した。

登録者には各自、事前に三段階のトレーニングを行い、衝突銀河の見分け方や特徴についての基本知識を得た上で分類に参加いただいている。1052 名による 2020 年 1 月 10 日までの分類結果を統計解析したところ、明るい銀河ほど楕円銀河の割合が高くなるという、過去の研究で知られている銀河の形態と明るさの関係がきれいに再現できた。また、大多数がリング銀河と判定したものが本当にリング銀河であるなど、概ね良い分類結果が得られているという感触を持っている。

本サイトでは、登録者に興味と銀河分類へのモチベーションを維持していただくため、毎月新しい NEWS 記事を掲載している。より頻繁に情報発信を行うため、Twitter アカウントを開設した。さらに 8 月には、1 人 1ヶ月で 1000 個銀河を分類しようというキャンペーンを実施する。本講演では、GALAXY CRUISE の進捗状況とともに今後の展望についても言及する。